

(氏名) 黒川基裕	(学部) 地域政策学部
1 重要事項 1-1. 研究成果 昨年度から推進してきた「途上国における産業デザイン人材の育成モデル」については、タイ国での実証研究の充実と周辺国展開に向けてのモデル構築を推進した。 実証研究については、2 年以上共同研究を推進してきた Silpakorn 大学との成果活用が進展しない一方、昨年度末より開始した工学系の共同研究機関である Kasetsert University との共同研究については、実証実験（講義形式でのカリキュラム試行）が軌道に乗り、2 巡目では参加する学生が増加した。このことでカリキュラムの確立が近づくとともに、商品企画案の評価シートの試行サンプルとなる学生の提出課題の回収も進んだ。今後の 3 巡目以降の実施見通しが明るくなるとともに、同大学での科目化なども検討段階に入っている。また、TPA での講義開講についてもより具体的な交渉ができるようになった。 周辺国展開に向けたモデル化については、まず 2015 年 7 月にモンゴルで開催された IFEAMA の国際学会において下記の成果を公表し、商品企画の能力測定方法について体系的なコメントを収集するとともに、モンゴルをはじめとするタイ国以外の援助対象国から自国での共同研究に取り組みたいという関心表明を得ることができた。 Kurokawa, M., (2015) “Product Planning and Design Education for Creative Industry Development” The 13th Conference of International Federation of East Asian Management Association in Ulaanbaatar, Organized by National University of Mongolia, Ulaanbaatar, pp.177-190 途上国の自動車産業研究については、現地調査の機会などは限定的であったが、これまでの成果を再度考察し、最新の状況を踏まえたかたちで下記の研究成果を公表した。また、タイ国で現在進行中の TAHRDIP（自動車産業人材育成プロジェクト）に関しては、関係者へのヒアリングを継続しており、最終年度に向けてプロジェクトの成果を取りまとめる機会を確保できるように務めている。 黒川基裕（2015）「タイ国自動車産業の歴史的変遷-国内市場の拡大とリージョナルハブに向けての取り組み」『季刊・国際貿易と投資』No.100：57-70 Kurokawa, M. (2016) “TAHRDIP in Thailand, Change in Method to improve Technology Transfer”, The Workshop on Human Resource Development in Late Industrialized Countries, Hiroshima University 1-2. 社会貢献 客員研究員を勤めている国際貿易投資研究所のプロジェクトである「東南アジア地域のサプライチェーン研究」に研究委員として参加し、ミャンマー、カンボジア、ベトナム、タイでの現地調査を推進した。調査では、賃金上昇、新興市場の獲得などの理由で日系企業がタイからその周辺国へ展開していくという動向を確認していくと同時に周辺国の投資環境を調査した。また、これまで取り組みが少なかったタイ系企業自体の周辺	

国展開について担当し、下記の成果を公表した。

黒川基裕（2016）「タイ系企業の周辺国展開」国際貿易投資研究所『メコンはチャイナ＋1、タイ＋1の機会を活かせるか』ITI 調査研究シリーズ No.26：40-54
(www.iti.or.jp/report_26.pdf)

4 期目となっている有限会社ハンサでの取り組みにおいては、引き続いて企業の海外展開支援に勤めるとともに、課題となることが多い人材育成システムのサポート方法を検討した。また、デザインのローカライズなどについて研究活動へのフィードバックを得ることができており、双方向的な関係構築が確立されている。このことによって、学生への実務指導の機会を拡張することができている。

1-3. 教育の質的向上

講義科目については、学習進度が低下しているという事態を鑑みて、講義内容を大幅に縮減し再構成した。結果として、学生の単位取得率と指導内容の習得度は改善された。このことによってもたらされる「限定的な知識」の習得度と長期的に捉えるべき学習効果を併せて検討しながら、どの程度学生の能力や要望に応えるべきなのかを検討していく。

演習科目については、商品企画能力をさらに強化するために、ファンド申請書類の作製を通じたドキュメンテーション能力、プレゼンテーション能力の向上を目指した。企画活動の最終成果物がある程度の分量が必要なプロポーサルとすることで、1. 日頃の研究活動の蓄積を正確に記録していくシステムが重要であること、2. 自身の取り組む課題をいかに簡便かつ明瞭に説明することが重要か、を伝達することができたと考える。

2 その他の事項

タイ国での研究活動、ネットワーク構築を推進して10年以上経過したことから、フィールドワークなどの機会を通じてミャンマー、カンボジア、ベトナムにおける研究交流の促進、ネットワーク構築を推進してきた。今後2年以内には、タイ国と同様の研究活動とサービスの提供ができるように環境整備を進めていきたい。

3 次年度以降の計画・抱負

最終年度にあたる「途上国における産業デザイン人材の育成研究」については、より多くの研究成果を目指すとともに、周辺国への拡張を具体化させる。特に来年度はミャンマーでの基礎調査実施を目標としたい。商品企画能力の指導・評価モデルについても、汎用性のあるかたちで公表を目指したい。